

## 1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

## (1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成

家庭・地域・学校協議会（9名）  
 区長会長（1名）地区体育協会代表（1名）  
 公民館長（1名）主任児童委員（1名）  
 放課後子ども教室代表（1名）  
 PTA（2名）学校職員（2名）  
 地域コーディネーター（2名）  
 食育のふるさと阪谷をよくする会会長（1名）  
 公民館長（1名）

## (2) 協議会の内容

○開催回数 年3回  
 ○開催日程と協議内容  
 第1回 6月28日（金）  
 ・スクールプラン、学校経営方針 など  
 第2回 11月8日（金）  
 ・全国学調を受けての学力向上プラン など  
 第3回 2月28日（金）  
 ・学校評価 など

## (3) 協議会における成果と課題

学校のスクールプランをもとに、児童の学力や体力、生活面などについて学校の実態を把握する中で課題となる点を見つけ、解決に向けて具体的にどのように取り組んでいくかを協議してきた。その結果、学校の課題に対して、地域が当事者意識を強く持ち、討議が活発に行われるようになった。今後、地域における課題を学校としてどのように参画・協力していくのかを討議する場面も設定していく必要がある。

## 2 地域と進める体験活動

## (1) 活動のねらい

- ・地域の自然・くらし・歴史などに興強・関心を示し、自ら課題を持ち意欲的に取り組めるようにする。
- ・学習を通して、自分の考え方、生き方を確かに行うことができるようにする。
- ・地域の一員として、学んだことを地域や社会に生かすことができるようにする。

## (2) 活動の実際

## ①サトイモに関する学習（5・6年生）

阪谷地区は、寒暖の差が大きく、風の通りもよく、農薬をあまり必要としない棚田があることから、米、そばの栽培の盛んなところである。5・6年生が総合的な学習の時間にサトイモ栽培も有名であることを知り、自分たちで栽培して食べるまで体験したいとの提案を受けて、サトイモに関する学習を始めた。栽培に関しては「家庭菜園の味グループ」の方の協力を得ながら計画を立て、5月に種芋を植えた。児童は、50cm間隔に



握りこぶしぐらいの穴を開けサトイモを置き、芽の部分が土から出るように丁寧に土をかぶせた。体験した児童の多くは、「初めてで、難しかったけど楽しかった。」と話していた。5月から10月にかけて、除草や土寄せ、水やりなどの世話を自分たちで当番を決めて行った。また、サトイモに関する調べ学習では、サトイモの歴史や種類・仲間などについてインターネットや本などを使って調べた。11月にも「家庭菜園の味グループ」の方に来ていただき、サトイモを掘る方法を教えていただき収穫を行った。鎌を使って茎の部分を切り、シャベルを使ってイモを掘り出した。一株に付いたサトイモの塊の大きさを見せ合うなど、収穫できた喜びを感じていた。収穫したサトイモを料理するために、サトイモ料理について調べ活動を行い、レシピ作りを行った。レシピをもとにサトイモ入りのシチューやプリンを調理し、栽培でお世話になった「家庭菜園の味グループ」の方

(様式3)

を招き、食事会を行った。地域の特産であるサトイモの栽培を通して、地域の方々とのつながりを持ち、地域の良さを確認する機会となった。

## ②ひまわり・そばの栽培と陶芸活動（3・4年生）

3・4年生は2年前から学校畑の半分ほどを使って、ひまわりとそばの栽培を行っている。今年度の3・4年生も、ひまわりとそばの栽培を行いたいと提案したため、総合的な学習の中で取り組んだ。昨年体験している4年生が、3年生にひまわりの種のまき方や育て方を教えた。その後、水遣りや間引き、草取りなどの世話をし、7月にはたくさんの花を咲かせることができた。8月には、種の収穫作業を行った。収穫した種は、



県自然保護センターの「野鳥のレストラン」で野鳥の餌として活用してもらおうと児童が提案し、自然保護センターを3・4年生全員で訪れ、贈呈式を行った。自分たちが育てたひまわりの種が役に立つことを所長から伺い、児童はとても満足そうな様子であった。



ひまわりを収穫した後に、そばの種をまいた。11月に鎌で1本ずつ刈り取り、足踏み脱穀機を使って、脱穀を行った。3・4年生全員が、脱穀機を自分で踏んで動かす体験もできた。12月には、「スターランドさかだに」に行き、石臼を回してそば粉作りを体験した後、自分達でそばを打って、打ち立てのそばを味わった。児童がそばを食べた器は、地域にある「桃木窯工房」に出かけ、地域の方に指導していただきながら、形作り、絵つけ、釉薬つけを行ったものである。自分で打ったそばを、自分が作った器で食べたことは、児童にとって忘れられない経験になった。

## (3) 地域コーディネーターの活動概要

食育のふるさと阪谷をよくする会会長には、そばを粉にする活動やそばうち体験、陶芸活動について児童の活動に対する指導や支援のみならず、施設の利用状況を見ながら日程調整もしていただいた。阪谷公民館長から阪谷地区にある施設や人材をもとにして、小学生が取り組める活動を紹介していただいた。

## (4) 特に工夫した事項

- ・地域の方の指導を受けたり、「スターランドさかだに」や「県自然保護センター」、「桃木窯工房」など地域に施設を活用したりするなど、地域の教育力を積極的に活用した。
- ・体験活動を効果的に行うために、事前学習では調べ学習を積極的に行い、事後学習では自分自身を振り返るために、感じたことや気づいたこと、考えたことについての課題を与えた。

## (5) 成果と課題

本校は学校教育方針の中で、「家庭、地域との連携を密にし、協力しながら児童を育てる」と掲げている。この体験推進事業を通して、学校が地域との連携を密に行い地域の教育力を生かしていくことにより、児童の地域への関心、愛着の心が育った。また、地域コーディネーターが活動場所の手配や指導者の調整を行っていただいたため、教員は児童の指導に力を注ぐことができた。現在、予算面の支援が充実しており、生徒の体験活動を進化することができている。しかし、今後予算面の支援がなくなったときのことを考慮すると、現在実施している活動を大幅に見直すことが必要ではないかと懸念される。

(様式 3)